

## 巻 頭 言

医学部長 久光 正

昭和大学は医学部、薬学部、歯学部、保健医療学部の4学部を擁する医療系総合大学です。しかし歴史的には、昭和3年、上條秀介博士らにより創設された、昭和医学専門学校(現医学部)を源としています。上條秀介博士は相手(患者)の立場になって真心を尽くす医療人を育成するという建学の精神を「至誠一貫」という言葉に集約されました。私は本学の医学部学生諸君がこの精神を理解し、受け継ぎ、そして医療に実践できる医師に育つと信じています。

近年の生命科学と科学技術の進歩は著しく、求められる医学の知識量と技術力は飛躍的に増大しています。このため、医学部の6年間で全てを習得する事は困難となりました。そこで、我が国では医学教育の大改革がおこなわれました。医学生が卒業までに必ず習得すべき知識・技術・心得を医学教育モデル・コア・カリキュラムにまとめ、全学習時間の約7割をこれらの習得にあて、残る約3割を各大学の個性をもった学習にあてることになりました。そして、6年間の学習を通して、卒業後は自らが必要な知識や技術などを選択し、自らの力で学習できる能力を備えるという目標が加えられました。本学においてもモデル・コア・カリキュラムに準拠した実習を重視した優れたカリキュラムが作られています。目標とする医師像に順次近づくよう各学年で実習時間が用意されています。最終学年の臨床実習は医療チームの一員となって診療にあたるクリニカルクラークシップです。近年の医療は多職種のスタッフがチームを作って診療にあたるチーム医療を特長としています。より良いチーム医療が実践できるよう、本学では1, 3, 4, 5, 6年次に学部連携教育を行っています。1年次の全寮生活もまた、チーム医療に必須であるコミュニケーション学習の場であり、大切な実習の一つと捉えています。

本シラバスは学生諸君がこの1年間に学習する内容をまとめたものです。学習単位をユニットと称し、各ユニットは綿密な計画の下に配置されています。あるユニットを理解して初めてあとのユニットが理解できるのです。ユニットごとに一般目標GIO:(general instructional objectives)、行動目標SBOs:(specific behavioral objectives)が示されています。そのユニットのゴールが一般目標であり、それを達成するためのステップが行動目標です。行動目標がすべて達せられればそのユニットの目標は達成されます。諸君が学習する上で極めて重要な道標が本シラバスです。シラバスを読むことで1年間の学習の後、諸君が一段一段、目標の医師像に近づくことがわかると思います。

医学を修め、医療を通して社会に貢献するには多くの努力が必要です。本学学生諸君にはそのための十分な資質があります。

大いなる学習成果が得られることを期待します。